

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるように生活（介護）をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護三和	管理者	廣川 丈人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	0人	2人	1人	1人	3人	3人	1人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	●各個人が事業所における目標を踏まえ、具体的に行っている事の共有と行っていない事を明示し、職員間で同じ意識を持てるようミーティングを活用し取り組んでいく。 ●まちなね（地域交流イベント）の再開、地域の会合への参加を全職員が持ち回り当番として関わる機会を設け、地域との関わりを深める。	・事業所自己評価の内容がわかりづらく、評価の基準にも職員間でばらつきがあったため、項目ごとに具体的な説明を行い、理解を深めることができた。 ・まちなねの再開はできなかったが、本体事業所と協力し、職員其々が地域へ出向き、民児協定例会でのミニ講座、こよし会での地域住民との交流ができた。	・職員全員が事業所自己評価にしっかり取り組まれ、改善が必要な点を明確に捉えられている。 ・とても細かく丁寧に作成されている。	●事業所自己評価9項目の改善計画を職員にしっかり周知し、事業所ミーティングにて定期的に評価を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	●サポートセンター三和がどのような施設なのかを理解してもらえるよう地域へのアピールと地域交流を進んで行えるよう畑作りを一緒に行える取り組みを行う。 ●1階地域交流スペースに訪れやすい空間づくりを行うため、立て看板を随時改善していく。	・センター玄関前に立て看板を設置し、担当職員を中心に定期的に介護、福祉、防犯等の様々な情報の発信を行った。 ・1階交流スペースには、定期的に余暇活動で作成した作品を展示しているが、地域の方に見ていただく機会を企画する等、事業所に入りやすくするための取り組みができなかった。 ・春より畑で野菜作りを行ない、秋に収穫したさつま芋で焼き芋作りをし	・季節を感じられ、清潔感がある。 ・事業所が2階にあり、玄関から距離があるため、物理的に難しい面もあると思うが、1階の地域交流スペースの有効活用ができると良い。 ・家族の方は訪れやすいと思うが、地域の方は接点がないとなかなか行く機会もなく訪問には至らない。イベント、作品展、茶話会などを企画するなど、何かしらきっかけがあると良い。 ・誰でも入りやすくすること	●季節折々の飾り付け、畑や花壇の手入れ等、ご利用者とともに取り組み、季節感が味わえるようにする。 ●地域の方が気軽に相談できるためのきっかけづくりに、1階の地域交流スペースの活用を企画する。

		て、近所の方々へお配りし、活動の理解へつなげることができた。	は、防犯面が弱くなるという課題もあり、両面を考えなければならない難しさがある。 ・2階の事業所内の様子を拝見させていただける機会があると良かった。	
C. 事業所と地域のかかわり	●サポートセンター三和の雰囲気作りは引き続き行い、事業所を知ってもらえるような取り組み（紹介等）を行う。まちなねを再開させ、サポートセンター三和と地域との交流機会を増やす。	・まちなねの再開はできなかったが、本体事業所と協力し、職員其々が地域へ出向き、クリーン作戦、民児協定例会でのミニ講座、こよし会で地域住民との交流ができた。	・こよし会やミニ講座を開催されており、地域の方ととても多く交流を持れていると感じた。 ・地域に向けた積極的な発信は本当に素晴らしい取り組み。今後もぜひ継続していただきたい。 ・千手祭で好評だったワークショップなどを地域交流スペースで行い、まずは地域の方に訪れてもらうきっかけづくりから進めてみてはどうか。 ・本体事業所の千手と連携ができています。 ・地域とのつながり、地域の中で生活続けることを大切にされていることがよくわかる。職員の方も感じの良い方ばかり。 ・スタッフの皆さんは何事にもとても前向きで優しさが伝わってくる。地域と一体になってやろうという精神で頑張ってる姿が素晴らしい。 ・地域の方はサポートセンター三和に困った時など相談できる身近な場所であることを知らない方が多いのではないかと。広く周知するための広報誌や案内でPRされると更に良い。	●日々、近隣住民の方への明るい挨拶で、相談しやすい雰囲気作りを心掛ける。 ●立て看板を活用し、サポートセンターのPRを進める。 ●ご利用者が散歩やドライブ等、外で過ごす機会をつくることで、地域の方々との交流の機会を増やす。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	●地域交流の機会に参加し、サポートセンター三和でのまちなねを通じて交流強化を図る。民生委員、町内会、地域の方とお互いの情報共有体制を作る。	・本体事業所と協力して地域へ出向き、地域の方々と交流することができたが、三和地域としての情報共有の場は、主に運営推進会議のみであった。	・家族や地域の方など、たくさんの方が関わり、取り組まれている。 ・今後も利用者の皆さんが地域活動に参加できるような支援・取り組みをお願いしたい。 ・地域の皆様のパイプ役になれるように民生委員も協力させて頂きたい。 ・会議の中でも委員の皆さんから相談が出たこともあったが、貴事業所は相談しやすく地域の中でとても頼りになる存在だと思うので、これからもお願いしたい。 ・利用者は作品作り、季節の行事、ドライブ等で気分転換や楽しい時間が過ごせている。	●本体事業所と協働し、地域のニーズに応えられるよう、民児協でのミニ講座やこよし会の企画・実施に全職員が参加し取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	●運営推進会議にて行う議題に地域での困りごとについて事業所がどのように協力していけるかを委員の方から意見をいただき、反映させていく。	・会議では困難事例に対して様々な方面より意見をいただき、その後の対応に活かすことができた。 ・会議において、防犯に対する取り組みについて指摘をいただき、本体事業所と共に防犯訓練(講義)を開催、職員の意識の向上につなげることができた。	・事例検討で皆様からのアドバイス・ご意見を聞き、自事業所でも活かしている。 ・会議では「地域の中で何ができるか」を常に意識して業務に取り組まれている姿勢が強く伝わってくる。委員の皆さんと、とても有意義な意見交換が行われており、毎回様々なことを学ばせていただいている。 ・会議に介護職員の方が順番に参加され、事業所皆で地域を知り、より良い運営に繋げようとする姿勢が素晴らしい。機会があれば会議で職員の方の声もお聞きしてみたい。 ・困難事例についての紹介で、事業所	●地域の困りごとや事業所での困難事例を議題に上げ、介護職員と共に、意見交換を行い、より良い支援に繋げる。

			の粘り強い取り組みがわかった。 ・地域での困りごとについて情報共有を行い、問題解決に導いていけるよう参加者で話し合う場である会議は有意義だ。各分野の方々のご意見を伺える会議の役割はとても大きいと思う。	
F. 事業所の防災・災害対策	●年間行事計画で行われている防災訓練について、地域に知ってもらうことと参加を促し、地域住民への災害時のセンターとの関わりについて理解してもらう。 ●運営推進会議委員の方に防災訓練についての案内を行い、参加、見学いただける取り組みを行う。	・地域・運営推進委員への発信を行うことができず、センター内での防災訓練にとどまった。	・今後、機会があれば自事業所からも防災訓練に参加させていただきたい。 ・地域とつながるきっかけを作ることから始め、そこから関係が広がっていくと良い。 ・防災訓練を繰り返し行い、急な本番でもいつもの行動ができれば素晴らしい。自分も心掛けたい。 ・いつやってくるかわからない怖い災害だが、地域みなさんも参加して、防災訓練が行えたら大変役立つと思う。機会があれば是非参加させて頂きたい。サポートセンター三和はいざという時もとても心強い存在。	●地域の方々に災害時、緊急時に活用していただけるようにサポートセンターの利用方法のPRを進める。 ●運営推進会議委員の方へ防災訓練への参加を求める。